

1 学校評価の目的

今年度の教育活動その他の学校運営の状況について「児童生徒」、「保護者」、「職員」による評価を行ない、結果に基づく本校の更なる教育水準の向上、学校運営の改善を図るために必要な具体的な方法を検討するためにアンケート調査を行った。

2 実施状況

- (1) 令和3年度学校評価運営委員による質問項目の検討
- (2) アンケートの実施（*職員には「働き方改革」に関わる内容を含む）
- (3) アンケートの回収
- (4) 結果の整理
- (5) 分析

3 アンケート結果

(1) 児童生徒

一番重要視しなければならない児童生徒の回答は言語表出・文字表記が可能な児童生徒に限られることから、全容を捉えることの限界を加味し、少人数の意見でもその意見を共有し、対応を検討する。

ア 回収の状況 児童生徒 136 名中 50 名の回収（回収率 37%）

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目に対して「はい」「いいえ」「どちらともいえない」で回答、集計している。

ウ アンケートの概要

(ア) 児童生徒アンケート

共通項目として学校生活に関する7項目、対象生徒のみの寄宿舎生活に関する2項目について3件法により、また、学校生活および寄宿舎生活について自由記述による2項目のアンケートを実施した。

共通項目7項目の肯定評価（はい）が否定評価（いいえ）を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 共通7項目（学校生活に関する項目）について

① 肯定評価：90%以上→7項目中1項目

80%台 →7項目中5項目 60%台 →7項目中1項目

② 肯定評価割合が上位なもの（ ）内は前年度

・Q5『先生は、あなたのやりたいことを励ましてくれますか』

肯定評価 94% (89%) 否定評価 2% (4%) どちらともいえない 4% (7%)

・Q6『先生は、地震や火事が起きたときに、安全に身を守る方法を教えてくださいか』

肯定評価 88% (96%) 否定評価 2% (0%) どちらともいえない 10% (4%)

・Q1『あなたは、学校で学習することが楽しいですか』

肯定評価 86% (93%) 否定評価 0% (2%) どちらともいえない 14% (5%)

③ 肯定評価割合が下位なもの（ ）内は前年度

・Q7『あなたは、他の学校との交流及び共同学習が楽しいですか』

肯定評価 64% (73%) 否定評価 4% (2%) どちらともいえない 32% (25%)

(ウ) 寄宿舎生活に関する2項目について

・Q9『あなたは、寄宿舎で安心して生活ができていますか』

肯定評価 86% (100%) 否定評価 0% (0%) どちらともいえない 14% (0%)

・Q10『寄宿舎の先生に気軽に話したり、相談したりできますか』

肯定評価 79% (100%) 否定評価 7% (0%) どちらともいえない 14% (0%)

(エ) 学校で楽しかったこと・頑張ったこと

*評価表参照

(2) 保護者

ア 回収の状況 保護者名 133 名中 104 名の回収 (回収率 78%)

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記のA～Eの各評価の人数を割合として算出する。

A：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

E：判断できない。

*考察の方法として特に、肯定評価 (A+B) [%] が否定評価 (C+D) [%] を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 保護者アンケート

共通項目として学校運営、教育活動に関する 12 項目、加えて寄宿舎生活に関する 3 項目を加えた全 15 項目について、5 件法によるアンケートを実施した。また、評価については、評価理由の自由記述を加えた。

共通項目 12 項目の肯定評価(はい) が否定評価(いいえ) を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 共通 12 項目 (学校運営、教育活動に関する項目) について

① 肯定評価：90%以上→12 項目中 6 項目

80%台 →12 項目中 5 項目 60%台→12 項目中 1 項目

② 肯定評価割合が上位なもの () 内は前年度

・Q8『担任は、ご家庭と十分に連携を図っていますか』

肯定評価 98% (98%) 否定評価 2% (2%) 判断できない 0% (0%)

・Q7『担任は、学校での学習内容や学習活動を適切に説明していますか』

肯定評価 97% (99%) 否定評価 3% (1%) 判断できない 0% (0%)

・Q1『学校は、お子さんにとって、安全・安心な環境になっていますか』

肯定評価 95% (93%) 否定評価 6% (2%) 判断できない 1% (5%)

・Q11『学校からのお知らせや学級通信等の情報提供は分かりやすいものになっていますか』

肯定評価 95% (99%) 否定評価 4% (0%) 判断できない 1% (1%)

③ 肯定評価割合が下位なもの

・Q12『ホームページ (フェイスブックを含む) 内容は充実したものになっていますか』

肯定評価 63% (72%) 否定評価 11% (10%) 判断できない 26% (18%)

(ウ) 寄宿舎生活に関する 3 項目について

・Q13『お子さんは、寄宿舎生活を安心して過ごしていると思いますか』

肯定評価 93% (100%) 否定評価 7% (0%) どちらともいえない 0% (0%)

・Q14『寄宿舎の活動や行事は、お子さんにとって、充実したものになっていますか』

肯定評価 100% (100%) 否定評価 0% (0%) どちらともいえない 0% (0%)

・Q15『寄宿舎担当は、御家庭と十分に連携を図っていますか』

肯定評価 100% (100%) 否定評価 0% (0%) どちらともいえない 0% (0%)

(3) 職員

ア 回収の状況 職員 156 名中 144 名の回収 (回収率 92%) *昨年度 84%

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記の A～D の各評価及び無回答の人数を割合として算出する。

A : 非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B : まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C : 少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D : 大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

* 考察の方法として特に、肯定評価 (A + B) [%] が否定評価 (C + D) [%] を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 教職員アンケート

共通項目として学校運営、教育活動、研修に関する 14 項目、加えて働き方改革に関する 6 項目を加えた全 20 項目について、4 件法によるアンケートを実施した。また、評価については、評価理由の自由記述を加えた。なお、職種により、回答が難しい項目については無回答を認めることとしている。

学校運営等に関する 14 項目の肯定評価 (はい) が否定評価 (いいえ) を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 学校運営等に関する 14 項目 (働き方改革に関する項目を除く) について

① 肯定評価 : 90% 以上 → 7 項目

80% 台 → 5 項目 70% 台 → 2 項目

肯定評価が否定評価を下回ったもの → なし

② 肯定評価割合が上位なもの () 内は前年度

・ Q1 『私は、学校経営計画・重点項目に沿って教育活動 (学校業務) を行っている』
肯定評価 98% (100%) 否定評価 1% (0%) 無回答 1% (0%)

・ Q2 『学校は、安全な教育環境を整え、必要な健康教育の充実を図っている』
肯定評価 98% (99%) 否定評価 1% (1%) 無回答 1% (0%)

・ Q5 『私は何かあった時に、「チーム学校」の考えで、問題を一人で抱え込まないよう「報告・連絡・相談」に努めている。』
肯定評価 97% (98%) 否定評価 3% (2%) 無回答 0% (0%)

③ 肯定評価割合が下位なもの () 内は前年度

・ Q8 『私は、授業等において、AT・ICT 教材を個々の児童生徒の実態に応じ工夫し、活用している』

肯定評価 78% (78%) 否定評価 9% (12%) 無回答 13% (20%)

・ Q10 『私は、キャリア発達の視点で個々の児童生徒の実態やニーズに応じた進路支援を行っている』

肯定評価 78% (81%) 否定評価 9% (2%) 無回答 13% (17%)

・ Q9 『交流及び共同学習は、児童生徒にとって有意義な学習活動になっている。』

肯定評価 82% (78%) 否定評価 7% (5%) 無回答 11% (17%)

4 考 察

(1) 肯定評価と否定評価の割合（共通項目総計）

	回収率	肯定評価	否定評価	分からない 無回答	評価割合
児童生徒	37%	82%	3%	15%	肯定評価>否定評価
保 護 者	78%	89%	5%	6%	肯定評価>否定評価
職 員	92%	90%	4%	6%	肯定評価>否定評価

児童生徒、保護者、職員ともに肯定評価が否定評価を高い割合で上回った。

(2) 各評価における分析

ア 児童生徒

- ・回収されたアンケート結果のうち、肯定評価が最も高かったのは、Q5『先生は、あなたがやりたいことを励ましてくれますか』の項目であり、前年度比で5ポイント高くなっている。児童生徒が自身の主体的な取組に対して、教員からの必要な支援や励ましに満足感を得ている様子が把握される。
- ・Q6『先生は、地震や火事がおきたとき、安全に身を守る方法を教えてくださいか』の項目は、前年度比で8ポイント低くなったが、88%と高い肯定評価となっている。年間を通しての、様々な災害や学校事故に対応した訓練等をとおして、自分の身を守る術について、学ぶことができていることを実感している状況が把握される。
- ・Q7『あなたは、他の学校との交流及び共同学習が楽しいですか』については、肯定評価が64%にとどまっている。昨年より続く、コロナ禍で交流圏を活用した交流及び共同学習や、学校間交流が制限されたり、実施方法が変更となったこと、活動の実感が得られにくかったことによるものと考えられる。
- ・小学部の結果の中では「頑張ったこと」の質問に対し、国語や算数、音楽等の教科の学習、プール学習、基本的な生活習慣に関すること等が挙げられた。「字がうまくなった」、「前に出て発表すること」など、学習の積み重ねの中で、自ら目標としていたことへの達成感を感じている様子が表現されている。
- ・中学部、高等部では「頑張ったこと」の質問に対し、英語や体育等の教科の学習、作業、現場実習等が挙げられた。また、学校や集団の中で係や役割として課せられていることを、やり遂げたことに対する達成感や自己肯定感を示す記述も見られている。
- ・対象生徒のみによる寄宿舎生活に関するアンケートの自由記述では、「洗濯」、「お買い物」、など、生活指導をとおして身の回りのことができるようになったことの実感や、「一人で眠れるようになった」など、初めての寄宿舎生活の中で目標としていたことが達成できたことの実感を示す記述が示されている。

イ 保護者

- ・回収されたアンケート結果のうち、肯定評価が最も高かったのは、Q8『担任は、御家庭と十分に連携を図っていますか』の項目で、前年度と同様に98%となっている。また、Q9『担任は、学校での学習内容や学習活動を適切に説明していますか』の項目も97%と高い肯定評価となっている。学級担任が家庭との間で、日常的に児童生徒に関わる情報共有に努めていることが評価されたものとする。
- ・Q11『学校からのお知らせや学級通信等の情報提供は分かりやすいものになっていますか』の肯定評価割合は95%となっており、前年度比で4ポイント低下したが、依然として高い割合を示している。一方で、Q12『ホームページ（フェイスブックを含む）の内容は充実したものになっていますか』の肯定評価は63%にとどまった。記述意見の中には、ホームページやフェイスブックについての周知をさらに図っていく必要について多くの意見が見られた。フェイスブックについては、今年度から実施しているが、周知が不十分であったことをふまえ、今後、さらなる周知を図っていく必要があると考える。
- ・すぐメールや災害伝言ダイヤル訓練の有効性については、88%の肯定評価割合が示された。コロナ禍での緊急連絡においてもメール等は、必要な内容を即時かつ一斉に伝達できる手段とし

て、今後も有効に活用していきたいと考える。

- ・学校行事についての充実度に関する項目では、92%の肯定評価割合が得られたが、自由記述において、コロナ禍での代替行事等における児童生徒の様子から取組を評価していただく一方で、やはり、様々な行事实施において制限が生じた状況に残念であった旨を示す意見が複数見られた。学校としての感染症の状況をふまえながら、安全・安心を確保し、学びの機会として行事のあり方を今後も検討していく必要がある。
- ・前年度アンケートの意見をふまえ、今年度より否定評価のみならず、肯定評価についても理由についての自由記述をいただくこととした。学校教育活動へのたくさんの励ましをいただくとともに、改善に向けた具体的な取組の視点についても教示いただいた。

ウ 職員

- ・学校教育計画・重点目標に沿った教育活動の状況については、肯定評価が98%であった。前年度より2ポイント低下したが、様々な職種が含まれる中、本校が目指す方向性を意識し、それぞれ業務に当たっている状況が把握されている。
- ・A T ・ I C T教材の活用については、肯定評価が昨年度同様に78%にとどまっている。職種により、直接的に学習指導に関わらない職員については、無回答の割合として13%を示している。自由記述においては、iPadを活用した授業実践にかかわる記述もあり、A T ・ I C T教材活用実践も浸透してきているものと思われる。一方、訪問教育等においては、A T ・ I C T教材を活用する環境が整っていないことなど、今後、効果的な活用に向けた環境整備が必要であると考える。
- ・交流及び共同学習についても、肯定評価が82%にとどまったが、前年度比では4ポイント上昇した。自由記述として、同学年同士の学び合いの効果や、コロナ禍で難しさの一方で、学習活動としては有意義なものであると捉えている状況が把握された。今後も、学習活動としての効果を共有しながら、交流及び共同学習を推進していけるようにしたい。